

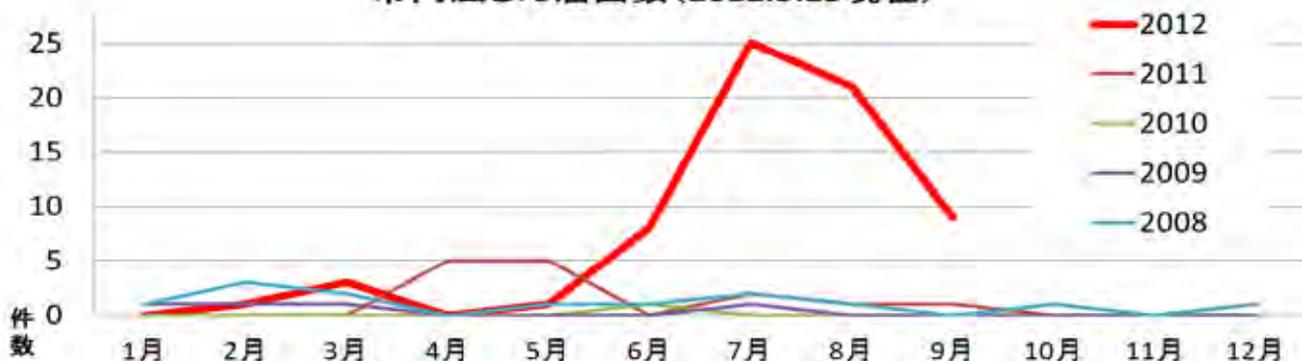
## 今月のトピックス

- Ⅰ RS ウイルス感染症の報告が増加しています。
- Ⅰ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。
- Ⅰ 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- Ⅰ マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

## 全数把握の対象

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 14 件(O157 VT1VT2 4 件、O157 H7VT1VT2 1 件、O157 VT2 4 件、O157 H7 VT2 2 件、O145 VT2 1 件、O26 VT1 1 件、O26 VT2 1 件)の報告がありました。この中には 4 つの家族での家族内発症がありましたが、感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。  
啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punfi/pdf/o1572007.pdf>
- 2 腸チフス: 1 件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での感染が推定されています。
- 3 デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先(ラオス、タイ、インドネシア)での感染が推定されています。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 1 件の報告がありました。感染の原因は現在調査中です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路は不明です。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 2 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は AIDS 症例(クリプトコッカス症(髄膜炎))で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 梅毒: 2 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は早期顕性梅毒(一期)で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 風しん: 9 件の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となりましたが、東京都や神奈川県を中心とした関東地方や、兵庫県、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 9 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代の男性ですが、10 歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

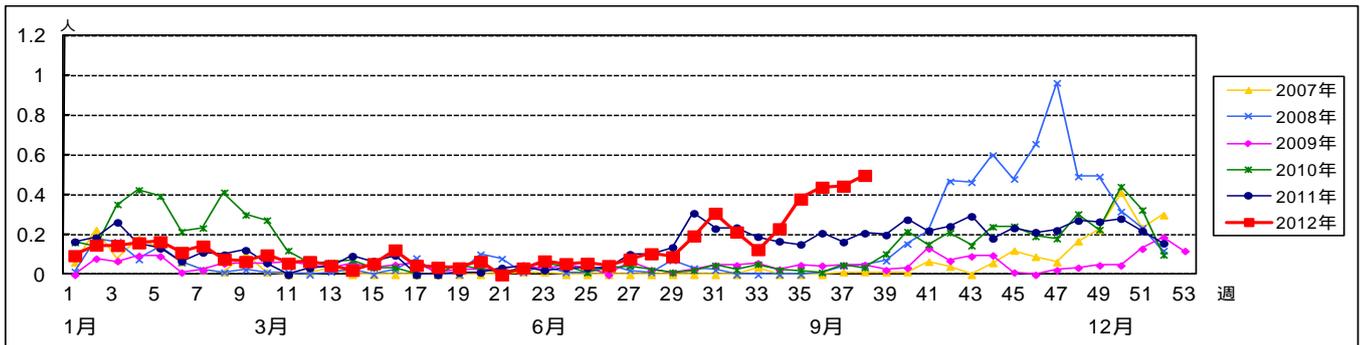
市内風しん届出数(2012.9.25現在)



## 定点把握の対象

- 1 **RSウイルス感染症**:第33週は定点あたり0.13でしたが、その後増加し続け、38週は定点あたり0.50と、例年を大きく上回っています。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告もあり、また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高く、臨床上、公衆衛生上重要な疾患です。RSウイルス感染症は例年冬期にピークがみられ、夏期には報告数が少なかった疾患ですが、全国的には2011年、2012年と2年連続して7月頃から増加傾向がみられています。2012年の報告数は第28週以降増加し、34週0.37、35週0.64、36週0.89、37週1.21、38週1.14と急激な増加がみられています。都道府県別の報告をみると、第38週では、宮崎県5.83、福岡県4.67、佐賀県4.43、山口県3.52となっています。関東周辺では東京都1.31、千葉県0.76、神奈川県0.41となっています。今後の流行に注意が必要です。

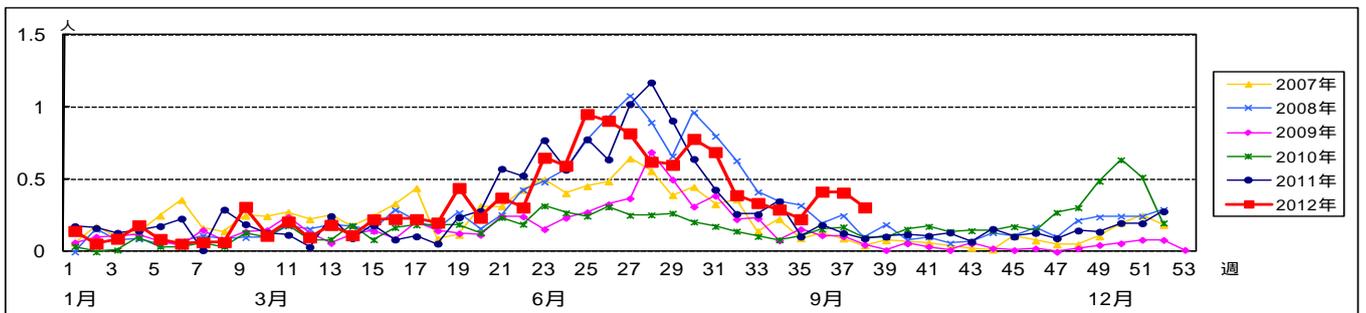
平成24年 週 - 月日対照表	
第35週	8月27日～9月2日
第36週	9月3～9日
第37週	9月10～16日
第38週	9月17～23日



IDWR 第36週:注目すべき感染症「RSウイルス」

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-36.pdf>

- 2 **咽頭結膜熱**:第38週は市全体で定点あたり0.31と、大きな流行は見られませんが、最近5年間の中では比較的報告が多い状況です。



- 3 **性感染症**:8月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が9件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が1件でした。
- 4 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。今年の初めは減少傾向が続いていたものの、第18週付近から再び上昇傾向を示しており、第35週1.09、36週1.08、37週1.10、38週1.05と、1.00を上回るようになりました。横浜市でも第35週1.33、36週0.00、37週1.00と、やや報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第35週に1件(幼児、病原体は未検出)、第37週に1件(幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**:8月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>